

〈解答〉

- ① 1 (主語) 顔が (述語) 見える (両解)
2 A えんによろ B 六
3 E
4 [例] 家にしよちゅう出入りするいろんな大人に対して、母さんの代わりに相手をしていた(から)。(39字)

配点 各2点 10点満点

〈解説〉

①

1 主語と述語を求められた場合は、述語から探すのが鉄則。日本語の述語は、文の最後にあるのが一般的であり、見つけやすいからである。よって、波線㉔の文の述語は、「見える」であることがわかる。後は、何が「見える」のか、「何が」に当たる言葉を、文中から探すと、それが主語である。これによって、波線㉔の文の主語が、「顔が」という文節であるとわかる。

2 波線㉔「建」という漢字の部首は「廴(えんによろ)」で、総画数は九画である。ただし、設問に「部首索引を用いて調べる」とあるので、総画数の九画から、部首「廴(えんによろ)」の三画を引いて、六画で探すということになる。

3 傍線部①の三行後に、「よう武者ぶるいするなんて言わはるやろ。そのいきの方や」と「武者いき」について、あかりが説明している部分があり、これから、あかりの言う「武者いき」が、「武者ぶるい」からきていることがわかる。「武者ぶるい」とは、「重大な場面に臨んで、興奮のために身体が震えること」なので、「武者いき」は、「重大な場面で出るためいき」という意味になると考えられる。よって、「気持ちが高ぶりすぎて出たもの」とある、Eが正解となる。

4 傍線部②の直前にある「とうさんの仕事の関係から、いろんな大人がしよちゅう家に出入りした。あかりは、ときにはお手伝いさんといっしょに、母さんがわりの接待もしなければならなかった」の部分を使って、あかりが「大人のことばづかいをおぼえ、大人みたいにふるまう」ようになった理由をまとめる。